

# RACE REPORT




 Round.05 **SUZUKA**
**第5戦 鈴鹿サーキット**

2026年5月24日(日)

予選・決勝

天候：曇り／晴れ 路面：ドライ

**#38 阪口 晴南**

予選 6番手 決勝：4位

**#39 大湯 都史樹**

予選 DNQ 決勝：17位

5月23日(土)に行われた第4戦では突然降り出した雨に翻弄され、阪口晴南は表彰台を見据えながらも入賞ならず。一方でスピード不足に苦しんだ大湯都史樹がポイントを獲得していた SANKI VERTEX PARTNERS CERUMO・INGING。レース中に降り出した雨は夜半まで降り続いたが、

一夜明けた5月24日(日)は雨も上がり、曇り空で迎えた。阪口は本来もっているスピードをしっかりと発揮し結果に結びつけること、そして大湯は第4戦での苦戦をなんとか打開し、金曜の専有走行までの好調を取り戻すべく、チームは夜まで作業を続け、5月24日(日)の第5戦に臨んだ。

## QUALIFY 公式予選

 5月24日(日) 10:25～11:10 天候：曇り 路面：ドライ  
 ベストタイム #38 阪口晴南 1'38.132 / #39 大湯都史樹 1'44.588

曇天模様となっていた5月24日(日)の鈴鹿サーキットは、早朝こそウエットパッチが残る状況だったが、サポートレースの間に完全なドライコンディションに転じ、午前10時25分からスーパーフォーミュラの公式予選を迎えた。気温24度／路面温度33度というコンディションのもと始まった予選で、まずQ1のA組に臨んだのは阪口だ。

前日からの好フィーリングも手伝い、阪口は1分38秒132というベストタイムを記録。まずは5番手につけてQ2進出を果たしてみせる。

一方、Q1のB組に出走したのは大湯。前日「コースに留まっていることが難しいくらい」というほど厳しいフィーリングだった大湯だが、不調の原因についてエンジニアも頭を悩ませている状況で、予選でも不調が続いていた。コントロールに苦しみ、1分38秒496というベストタイムを記録するも、予選後に走路外走行のペナルティをとられベストタイムは抹消。1分44秒588がベストとなり、Q1突破はならなかった。チームは午後の決勝レースに向けて、大湯車の改善に取り組んでいった。

大湯がQ1で予選を終えてしまったため、SANKI VERTEX PARTNERS CERUMO・INGINGは午前11時

からスタートしたQ2には阪口のみが出走した。阪口はここで1分38秒133とわずかにQ1からタイムを伸ばせなかったものの、6番手で公式予選を終えることになった。「アタック中に細かいミスもありましたが、前日同様、この2～3列目の位置が僕たちの現在のマックスだと思います。そこは自分たちで分かっているので、慌てることなくしっかりと最善を尽くす予選にできたと思います」と阪口は予選を振り返った。前日同様のパフォーマンスで、3列目グリッドから午後の決勝で表彰台を目指すことになった。



## RACE

## 決勝レース

5月24日(日) 14:45~15:45 天候:晴れ 路面:ドライ  
ベストタイム #38 阪口晴南 1'40.313 (31L) / #39 大湯都史樹 1'40.882 (31L)

午前は曇天だった鈴鹿サーキットは、午後に向けて晴れ間が広がり、午後2時45分から行われた決勝レースは気温25度/路面温度41度というコンディションで迎えた。

SANKI VERTEX PARTNERS CERUMO・INGINGは、阪口が6番手から「悪くない」スタートを切るも、周囲のスタートも良く7番手でオープニングラップを終える。一方、21番手からスタートした大湯は、1周目の混乱に巻き込まれてしまった。Astemo シケインで17番手スタートの#19 ザック・オサリバンが接触でスピンを喫し、これを避けようとした#16 野尻智紀が大湯の目前で急減速。大湯はこれを避けきれずに接触してしまい、フロントウイングを痛めてしまった。

大湯は1周をフロントを痛めた状態で走行を強いられ、緊急ピットインを行ったが、パーツの飛散によりレースはセーフティカーランとなり、遅れは最小限に。ただ順位は23番手と、最後尾近い順位になってしまった。

5周目にリスタートを迎えると、阪口は#50 野村勇斗をパスし6番手に浮上。さらに#6 太田格之進とバトルを展開しながら序盤のレースを進める。8周を終えピットインがオープンするとピットインする車両が出はじめたが、阪口は上位集団と同じ戦略を採りコース上にステイアウト。4番手につけていった。

一方、早めのピットインを行ったのは大湯。公式予選まで苦しめられていたフィーリングの悪さは、タイヤに熱が入ってからはやや改善しており、比較的良好なペースで走行。後方から接近してきた#28 小林利傑斗を抑えながらレースを進めた。SUPER GTでのチームメイトとのバトルとなったが、#28 小林にバトルの仕方を教えるかのような余裕もみせるレース中盤となった。

オープニングラップ後のセーフティカーランをのぞき、このレースはアクシデントなく推移することになったが、阪口は21周を終え2番手を走っていた#1 岩佐歩夢と同タイミングでピットイン。チームもきっちりと作業を終え、#1 岩佐とほぼ同じタイミングでピットアウトした。先にピットインしていた#36 坪井翔の背後でコースに戻ると、27周目にはこれをパス。全車がピットを終えると4番手につけた。

阪口は最後まで高い戦闘力を保ったまま終盤を戦い、熾烈なバトルを展開したトップ3には届かなかったものの、4位でフィニッシュした。

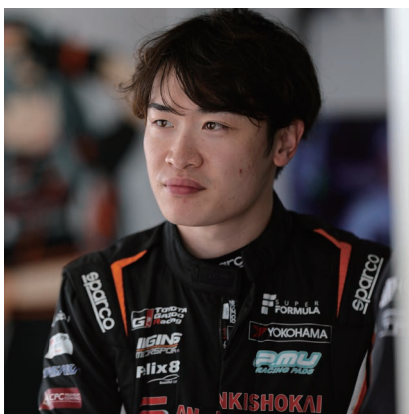
一方、大湯も27周目には#53 チャーリー・ブルツを、ファイナルラップには#12 小出峻をかわし17位でゴール。苦しい中でレースを最後まで戦い抜いた。

2026年のスーパーフォーミュラは、7月に富士スピードウェイで第4大会を迎えるが、その前にはテストも行われる。チームは後半戦に向けさらなる改善を進めていく。



# COMMENTS

## ドライバー／監督コメント



### 38 阪口 晴南 SENA SAKAGUCHI

「序盤以外はほぼクリーンなレースになりましたが、その中できっちり戦っての4位だったので、最近の調子の良さをしっかりと決勝でも出せたと思います。レースの内容としても序盤、中盤にかなりアグレッシブにバトルができましたし、強いレースができたと思っています。ペースもクルマも良く、自信をもってバトルができました。戦略もとても良かったですね。こういうレースを続けていけば今後チャンスが絶対に出てくると思います。今回、#14 福住仁嶺選手が優勝しましたが、今季チームを移籍して、1台体制でみんなの支えとともに優勝したのは感動しました。一方でその光景を見ての悔しさもあるので、次は自分の番だと思って次戦以降も頑張りたいです」



### 39 大湯 都史樹 TOSHIKI OYU

「前日は苦しいレースでしたが、今日はタイヤの内圧が上がってからのレース後半のペースはそれほど悪くはなかったですし、感触も悪くはなかったです。ただやはりレース序盤のパフォーマンスは足りていなかったため、なぜそうなったのかの理由をしっかりと解析していきたいですね。ただ、今日は1周目のアクシデントでタイヤも傷めてしまったので、ニュータイヤを1セット使ってしまったのは次のテストに向けて痛手になってしまいました。アクシデントは避けようがありませんでした。今回の鈴鹿はさまざまな課題がありました。今季は正直タイトル争いは厳しくなりましたが、まずは1勝することに重きをおいて次戦に向けて頑張っていきたいと思っています」



### 立川 祐路 監督 YUJI TACHIKAWA

「まずは今回優勝を飾った ROOKIE Racing さんに『おめでとうございます』と伝えたいです。我々としては阪口選手が前日展開に恵まれず結果が残せませんでした。今日は本来のパフォーマンスどおりの結果が出せたと思います。トップ争いにはあとほんの少しの差だと思うので、優勝争いに加わるためにもう一步レベルを上げていきたいですね。大湯選手は昨日からの調子の悪さが続いてしまいました。良いところが出せないレースになってしまいました。次の富士でのレースまでに時間もありますし、テストも予定されているので、仕切り直してしっかりと原因を分析し、準備をしていきたいと思っています。今週末も応援ありがとうございました！」



# RACE REPORT

## RESULT リザルト

### 第5戦鈴鹿サーキット 決勝結果

Pos.	No.	Driver	Car	Engine	Laps	Total Time	Gap
1	14	福住仁嶺	NTT docomo Business ROOKIE SF23	TOYOTA/TRD 01F	31	55'58.747	
2	1	岩佐歩夢	AUTOBACS MUGEN SF23	HONDA/M-TEC HR-417E	31	55'58.987	0.240
3	6	太田格之進	DOCOMO DANDELION M6Y SF23	HONDA/M-TEC HR-417E	31	55'59.367	0.620
4	38	阪口晴南	SANKI VERTEX CERUMOINGING SF23	TOYOTA/TRD 01F	31	56'03.623	4.876
5	36	坪井翔	VANTELIN TOM'S SF23	TOYOTA/TRD 01F	31	56'06.956	8.209
6	5	牧野任祐	DOCOMO DANDELION M5S SF23	HONDA/M-TEC HR-417E	31	56'09.702	10.955
7	37	S. フェネストラズ	VANTELIN TOM'S SF23	TOYOTA/TRD 01F	31	56'10.653	11.906
8	65	I. オオムラ・フラガ	PONOS NAKAJIMA RACING SF23	HONDA/M-TEC HR-417E	31	56'11.096	12.349
9	64	佐藤蓮	PONOS NAKAJIMA RACING SF23	HONDA/M-TEC HR-417E	31	56'11.330	12.583
10	7	小林可夢偉	KDDI TGMGP TGR-DC SF23	TOYOTA/TRD 01F	31	56'12.323	13.576
11	16	野尻智紀	AUTOBACS MUGEN SF23	HONDA/M-TEC HR-417E	31	56'15.828	17.081
12	22	松下信治	DELIGHTWORKS SF23	HONDA/M-TEC HR-417E	31	56'16.916	18.169
13	50	野村勇斗	San-Ei Gen with B-Max SF23	HONDA/M-TEC HR-417E	31	56'17.669	18.922
14	3	L. ブラウニング	REALIZE Corporation KONDO SF23	TOYOTA/TRD 01F	31	56'27.999	29.252
15	97	R. スタネック	ナビクル Buzz MK SF23	TOYOTA/TRD 01F	31	56'30.551	31.804
16	8	山下健太	KCMG Cayman SF23	TOYOTA/TRD 01F	31	56'31.599	32.852
17	39	大湯都史樹	SANKI VERTEX CERUMOINGING SF23	TOYOTA/TRD 01F	31	56'40.493	41.746
18	12	小出峻	ThreeBond SF23	HONDA/M-TEC HR-417E	31	56'42.172	43.425
19	9	野中誠太	KCMG Elyse SF23	TOYOTA/TRD 01F	31	56'42.323	43.576
20	19	Z. オサリバン	WECARS IMPUL with SDG SF23	TOYOTA/TRD 01F	31	56'44.423	45.676
21	10	Juju	HAZAMA ANDO Triple Tree SF23	HONDA/M-TEC HR-417E	31	56'48.545	49.798
22	53	C. ブルツ	TEAM GOH SF23	TOYOTA/TRD 01F	31	56'51.462	52.715
23	28	小林利徠斗	KDDI TGMGP TGR-DC SF23	TOYOTA/TRD 01F	31	57'28.048	1'29.301
以上完走							
4	4	笹原右京	REALIZE Corporation KONDO SF23	TOYOTA/TRD 01F	14	36'24.780	17Laps

### ドライバーランキング (上位)

Rank.	No.	Driver	Total
1	6	太田格之進	52
2	1	岩佐歩夢	37.5
3	14	福住仁嶺	35
4	37	S. フェネストラズ	26.5
5	38	阪口晴南	23
6	36	坪井翔	18
7	22	松下信治	16
8	3	L. ブラウニング	16
9	39	大湯都史樹	13
10	64	佐藤蓮	8.5

### チームランキング (上位)

Rank.	Team	Total
1	DOCOMO TEAM DANDELION RACING	50
2	VANTELIN TEAM TOM'S	44.5
3	SANKI VERTEX PARTNERS CERUMO・INGING	34
4	NTT docomo Business ROOKIE	32
5	TEAM MUGEN AUTOBACS	27
6	DELIGHTWORKS RACING	16
7	REALIZE KONDO RACING	16
8	PONOS NAKAJIMA RACING	14.5
9	TEAM IMPUL	7
10	TEAM GOH	6